

県連 山スキーネット交流山行

期 日 2011年3月6日(日)
場 所 東北・あだたら高原スキー場

参加者 3団体 16名
(熊谷トレッキング同人、所沢HC、岩つばめ) 安達太良山

2011年3月6日(日)、安達太良山にて山スキーネット交流山行が行われました。今年は所沢ハイキングクラブの長谷川さんの他、岩つばめから目崎さん・森田さんの参加があり、熊谷トレッキング同人の13名を加えて総勢16名とネット山行らしく大人数となりました。

あだたらスキー場のベースロッジに全員集合し、自己紹介・本日の行程確認の後出発しました。

高速の道中では山頂も望まれ、絶好の天気かと思われましたが、安達太良特有の強風でゴンドラは運転中止。仕方が無いのでリフトを乗り継ぎ、リフトTOPから登り始めました。

五葉松平までは帰りのトレース付けを意識しながらルートを取り、1330mにて一休み。標高が上がるに連れて風雪共に強くなり、1470mで夏道の標識に合流した後は吹きさらしとなるので、目出帽・クト

ーを装着。視界も悪く、行けるところまで様子を見ながら進むこととしました。1580mまで登り、この先は完全にホワイトアウトの状況であったため、山頂は断念し、今回はここまでとしました。

強風に装備を飛ばされないう様に注意して準備を済まし、滑降開始。視界が無く雪面の様子が良く分からないうため慎重に高度を下げていきましたが、筆者はめまいがするような感じで度々転んでしまいました。1500m付近からは沢の側面斜面を滑って、やっと滑った感覚を楽しめました。

沢底で昼食休憩の後、もう一本滑るべく再度シールを着けて出発。最初、北にトラバース気味に進み、対岸斜面が滑れないか覗いてみましたが、雪面が風にあたかれて硬く、斜面も無木立で雪崩の危険性が非常に高い状態であったので引き返しました。その後は滑ってきた沢を登り返し、一本



昨年的那須・スダレ山

目とほぼ同じ1520mまで登りました。ここから登ってきたルートを戻るように滑りました。沢中の雪なので、それなりに滑りは楽しめました。

五葉松平で登りのトレースに合流し、平坦な所はトレースをボブスレー滑降で進んでゲレンデに戻りました。ベースロッジで解散式の後、直帰する岩つばめのお二人とはここで別れ、残りのメンバーは岳温泉で冷えた体を温めた後、帰路につきました。

今回は予想外の吹雪とホワイトアウトで思うような行動が取れませんでした。悪条件の中でも無事終了する事が出来たのは良かったと思います。

担当理事 木村哲也 記
(熊谷トレッキング同人)

山で会える花

ハイキング委員会

澤藤俊昭

カタクリ

雪解けとともに、山々は芽吹きを季節を迎え、いち早く残雪の下からは春の花々が顔を出す。

雪割草とともに、このカタクリもまた春を代表する花のひとつ。

上越等、残雪の残る北国では、山の斜面一面がピンク色に群生しているのも珍しくはないが、関東近郊では佐野・三轟山や高尾山や奥多摩・御前山～惣岳山等が素晴らしく、花の咲くこの時期には大勢のハイキング愛好者や花見客で賑わっている。

少し、遠くなるが新潟・六日町の坂戸山は、山麓の城跡から頂上までもカタクリが群生していて、雪の多かった昨年の5月の連休は満開の桜とコゴメ等の山菜取り、そして満開のカタクリやキクザキイチゲ等の花に出会えた！



岩ウチワ

この岩ウチワもまた、雪解けの春山でよく見かける花で、カタクリと同じくピンクの可愛い花が、山の斜面一斉に咲いている。咲き始めは白く、中には白い亜種もあり、イワウチワの名前は葉の形からで花はうちわ風にあおられる風車のようなものである。残雪のある上越方面のどこの山でも見られるが、水上～谷川岳ロープウェイ駅に向かい、一の倉沢までの旧道(車道)の斜面や白毛門登山道でも手軽に見られる。また、小出の奥の権現堂山も一面のイワウチワの群落に感激した。

